

2023年度 日本老年看護学会 生涯学習支援研修 実践編（災害看護） 報告

日時：2024年1月27日（土） 12時30分～17時00分

実施方法：対面研修

参加者：34名（会員26名，非会員8名）

主催：災害支援委員会

テーマ：宮城県名取市閑上地区被災地巡検

内容：

- 1) 閑上震災を伝える会の語り部からお話
- 2) 東北大学災害科学国際研究所 ボレー・ペンメレス・セバスチャン先生の講演会
- 3) 名取市震災復興伝承館、名取トレイルセンター 等の見学
- 4) 参加者によるグループワーク

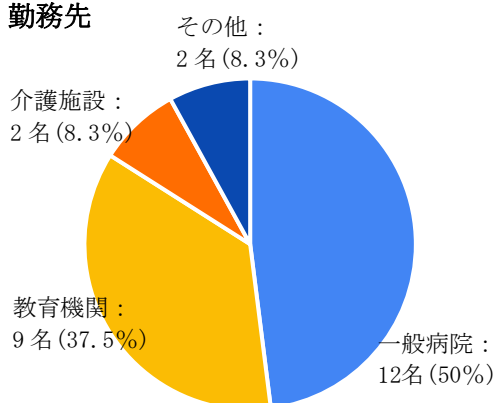
アンケート結果（回収数24，回収率70.6%）

1. 回答者の概要

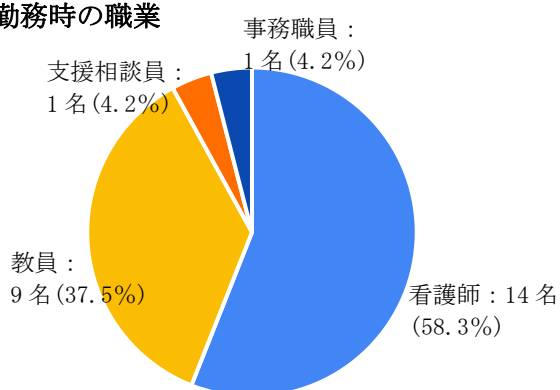
1) 入会状況

会員18名（75%）、非会員6名（25%）

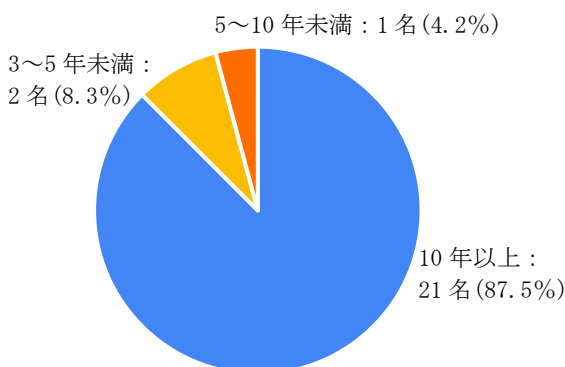
2) 勤務先



3) 勤務時の職業



4) 経験年数



5) 研修会を知ったきっかけ（複数回答）

学会関係者の紹介10名（41.7%）、学会からのメール9名（37.5%）、
上司の紹介4名（16.7%）、同僚の紹介3名（12.5%）、その他1名（4.2%）

6) 受講動機（複数回答）

テーマに関心があった23名（95.8%）、上司の勧め5名（20.8%）、
知人の勧め5名（20.8%）、参加費が安かった3名（12.5%）、その他3名（12.5%）

2. 研修方法について

1) 開催時期

良い 20 名 (83.3%)、悪い 2 名 (8.3%)、どちらとも言えない 2 名 (8.3%)

意見・学会や他の研修会、所属病院の行事などもなかったため ・寒かった

- ・東北の震災も能登半島の震災も、寒い時期に発生しており、寒い時期の被災地の状況を推察することができる時期であるため

2) 参加費 ちょうどよい 14 名 (58.3%)、もっと高くてもよい 9 名 (37.5%)
もっと安くしてほしい 1 名 (4.2%)

3. 研修内容について

1) 研修会は期待通りであったか

期待通り 12 名 (50.0%)、まあ期待通り 12 名 (50.0%)

2) 災害時の高齢者ケアにおいて必要だと感じた事を教えてください

- ・災害時にどうすべきか（どうしたいか）を高齢者自身がどう認識しているか知ること
- ・災害時でも生活が継続される必要がある
- ・ケア提供者として、必要な時に支援者側に回るためにも、まず自分自身の災害に備える
- ・不安に寄り添うため、まずは自分自身が冷静になること
- ・避難場所や経路、高齢者の状況を適切に把握して安全に行動できるようにする
- ・避難や命を守る活動を行うには、地域での協働が大切
- ・迅速に非難するため、地域のどこに居住しており、身体状態はどうかを把握する
- ・認知症の症状などが悪化する場合があります、コミュニケーションの中で具体的な質問を投げかけるなどしてアセスメントする必要がある
- ・安全な居場所づくり（コミュニティ作りが早い復興につながる）
- ・高齢者ケアまで、十分に考えられなかった

3) 復興支援において必要だと感じた事を教えてください

- ・過去の教訓を大切にするとコミュニティ
- ・その地域の文化や歴史を踏まえて、地域の人たちと協力すること
- ・諦めないこと、高齢者の力を信じで耳を傾けることが必要
- ・発災直後は災害関連死対策を多角的に行い、急性期を脱した後も今までの生活を喪失する体験に寄り添うことが必要
- ・被災者の声を聞き、今、何が求められているのか、その中で自分ができることは何なのかを見極め、行動する力が必要
- ・住民の地域への思いが復興を推進するため、地域の歴史や文化を知ることが大事
- ・地域の協働と、日頃からの災害に関心をよせる
- ・行政と地域が協働し取り組む姿勢が必要
- ・人々が祈ったり、集ったりして、レジリエンスを高めることができる場所があること
- ・災害で物理的に壊れてしまった人とのつながりの場を設け、コミュニティを再興していくことが、人々の生きる力になる

4) 今回の研修を受けて、平常時の備えとして取り組もうと考えている事を教えてください

- ・災害大国に住んでいるが故の防災に対する意識を高める ・避難訓練をする
- ・今住んでいる地域のことを知るため、石碑などを見つけない
- ・避難訓練の実施や防災物品の見直しのほか、「先人の知恵」に今一度耳を傾けたい
- ・地域の避難場所を確認して、近所でどのような高齢者が暮らしているのかを知る
- ・自分の今回の学びを周囲と共有し、職場でも何が必要なのかを皆で考える

- ・震災のあった地域で何が起きているのか関心を持って知識を得て、担当地域に携わる
- ・家族に今日の話をし、市政だよりなどを読み、自分の住居地の避難場所の確認と勤務地域の避難場所の確認
- ・施設の防災マニュアルを見直し、地域の避難場所としての役割を明確化し、地域とのつながりをもつ事の必要性を職場で発信し続ける
- ・勤務中に大規模災害が起こった場合の具体的な避難経路や、救出方法、どのような順序で避難誘導するかなど、イメージトレーニング
- ・現場ではマニュアルも大事だが、どう動くかを記したアクションカードも必要
- ・隣近所への声かけ、避難ルートの確認、家族の安否確認方法、防災グッズの補充、すぐに持ち出せるように準備しておく

5) 今回の研修に対するご意見ご感想など、自由にお聞かせください

- ・1人では行かない場所のバスツアーで、勉強になってとても楽しかった
- ・慰霊碑や記念碑で手を合わせる時間があっても良かった
- ・現場の空気を感じ、名前の声を聞くということで貴重な体験となった
- ・地元にながら知らない事が多くて恥ずかしかったが、改めて何ができるか、何が必要かを考える機会となった
- ・1日研修スケジュールで歩いてみてまわってもよいと思う
- ・災害時の避難所や自宅にいる高齢者、施設の高齢者の状況や必要な支援、効果的な支援について知りたいと思った
- ・災害が起こった現地を見て、語り部の方の生の声を聴くことは、10年以上経っても心に響くものがあった
- ・8Mの波の高さ、津波の破壊力を体感的に知ることができとても有意義な研修だった
- ・同じようなリスクであっても、日頃の備えや訓練、避難することへの心構えが生死を分かつこと、命さえあれば復興できるという強いメッセージを感じた

6) 災害時の支援や平時の備えについてお困りのことがあれば教えてください

- ・訓練が大切だと思うが、具体的かつ職員全員が参加し、災害を自身のものとして考える内容になっていないことが課題
- ・地域との関わりが希薄である
- ・災害時に支援を行いたいと思っても、十分な準備や情報がない中で支援をしても迷惑をかけてしまう
- ・ネット上にBCPの雛形や抽象的な物品リストなどはあるが、病院規模に応じてどの程度何を準備すべきか分からない
- ・院内に災害対応の経験者がいないので、具体的な場面の想定が難しい
- ・避難誘導の具体的なイメージがつかない ・防災意識を高めるための方法
- ・寒冷地では、冬季に災害が起こった場合、暖房の確保が必須となるため、災害後の環境整備が心配

7) 今後も本学会主催の研修会に参加したいか

とても参加したい 13名 (54.2%)、まあ参加したい 11名 (45.8%)

8) 今後研修会として取り上げてほしいテーマ、老年看護学会への要望

- ・災害時の高齢者のケアの実践 (演習を含めて)
- ・今回のような研修を、地域を変えて開催してほしい
- ・認知症ケアや意思決定支援、家族看護について
- ・病院の災害対策本部を想定した訓練
 - ・災害時の認知症高齢者のケア
 - ・災害時医療に関する内容